

校長室から

1年生三人の大きな成長

1月・2月には、業間休みに休み時間チャレンジと名付けて、普段遊ばない遊びにチャレンジしました。鬼ごっこマラソン、鉄棒など、それぞれ個人、異学年グループになって、児童は思い思いに遊んでいました。

サッカーゴール前で、小さな児童が三人座って話をしています。よく見ると1年生です。担任の先生によると自主的に一緒に何かしようと話し合っていたそうです。

思い返してみると、一学期、1年生にはすべて新しい生活のスタートです。戸惑い、慣れないことばかり。授業を見ると、三人が自分の話をまず聞いてもらおうと同時に担任に話しかけています。可愛いなあと思う一方、私が担任ならば「うるさい」と怒鳴ってしまいそうでした。

現在は、三人は真剣に授業を受けていますし、担任やお互いの話を聞いて、さらにどうしたらよいかを考えようとする姿が見られます。

今、私の目の前で、「同じ学年同士一緒に」と意識が育っているのです。日々の教育で見違えるようにという表現がありますが、これほどまで人間を変えていくのかと驚きました。

後二か月で後輩ができる三人に、「よし！この調子、がんばれ」と握りこぶしに力が入りました。

第2回学校運営協議会・いじめ対策委員会報告 2月9日 於 校長室

令和4年度の総合教育調査の結果と令和5年度の経営方針を話し合いました。

○学校からの主な説明

- ・思いやりの気持ちは育ってきている。 ・家庭でよくお手伝いをしている。
- ・地域の方が学習に関わっていることは、保護者にはありがたく十分評価している。
- ・外国語に触れて、家庭でも外国語を使うなどの効果が出てきているが、改まった場や見知らぬ外国人への言葉かけには今一つ話しかけられない。
- ・タブレットはよく使えているが、授業でのグループやペア学習の機会が少ない。
- ・今まで欠席が多かった児童が、改善されてきた。

○委員からの主な意見

- ・地域の自然や歴史を学習する際には、五感を使って楽しさを味わうことが大切だ。
- ・コロナの感染対策からグループやペアなどで児童同士が関係をつくることが十分ではないので、給食の黙食の指導もあろうが児童相互の関係をつくってほしい。
- ・できれば、学習支援で地域のボランティアの方に外国語で話してみるなどの方法があるのではないか。
- ・保護者は一人一人をよく見てくれる学校だと認識され、安心して預けられていると思う。
- ・本校は人数が少なく、総合調査アンケートの一人あたりの回答の比重が高いため、単に割合の比較で見るのはよくない。今の肯定的回答3分の2程度の基準でよい。数年やってみて見直していくべきだ。
- ・子育てに悩んでいる保護者の気持ちを支える手立てや方法を模索したい。

